

Next

発行所 一般社団法人 茨城県建設業協会
建設未来協議会
〒310-0062 茨城県水戸市大町3-1-22
電話 029 (221) 5126(代)
ホームページ <http://miraikyo.com>
発行人 増子 秀典
編集 日本工業経済新聞社水戸支局

平成28年度基本方針

建設未来協議会 会長 増子 秀典

はじめに、昨年9月に発災した関東・東北豪雨災害ならびに、本年4月に発生した熊本地震により多大な被害を被った方々に対し、謹んでお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

また、常総市の豪雨水害では、当協議会会員企業も、昼夜問わず、懸命に災害対応にあたったことに対し心から敬意を表します。

近年、我が国の建設産業は、アベノミクス以前の建設投資の減少や受注競争の激化等により、建設企業が疲弊し、現場技能者等の処遇悪化や若年者の入職率・定着率の減少等厳しい状況に直面しています。あわせて、労働人口の減少や少子高齢化の影響を受け、地域の担い手不足が深刻な問題になっています。その結果、将来における社会資本の整備・維持管理や品質確保、災害対応等に支障が生じる恐れがあります。

当協議会としても担い手確保を最重要課題と掲げ、現状や将来の見通しを含む認識を、短期及び中長期といった時間軸に分けた上で、会員全員で意識を高めていかなければならないと考えます。

また、本年度においては、茨城県も国と歩調を合わせ、公共事業を上半期に8割執行するという計画を立てております。我々も公共工事の円滑な施工に万全を期するとともに、技能労働者の処遇改善および雇用環境の改善に努めていきたいと思っております。

さて、当協議会では、今年度も事業計画に基づき3つの常設委員会と1つの特設委員会、そして6つの地区会にて積極的な活動を実施して参ります。特設委員会は、昨今の建設業従事者の減少、若

年層の建設業離れという観点から、建設業の魅力や必要性、また創造性や物づくりの楽しさが広く周知されるように『広報委員会』として活動いたします。

茨城県土木部におかれましても、広報戦略の一環により、社会インフラのストック効果で生産性の向上や生活の質の向上をうたい、『暮らしと経済を支えるインフラ』として公共事業の必要性を大々的にPRしております。

我々も今まで以上に『広報委員会』を通して毎年継続的に行っている建設フェスタや建設体験学習、建設ふれあい祭りなどの活動に対して、マスコミの取材誘致やインターネット、SNSを活用した広報を積極的に行ない、建設産業の意義や魅力を一般の方々に広く周知し、業界のイメージアップに最大限貢献して参ります。

また、継続して行ってきた各発注機関との意見交換会も我々建設未来協議会ならではの視点で続けさせていただきたいと思っております。

その他、各委員会・各地区会で実施する活動に対し、会員の皆様に積極的に参加していただくことにより、有効な情報を互いに学び共有し、全県下にネットワークを形成することから生まれるメリットを、各企業で最大限活かしていただきたいと思います。

今年度も当協議会の運営に協会本部、会員並びに関係各位の皆様、より一層のご支援・ご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。



平成28年度 第24回定時総会開催

総務委員会 副委員長 後藤 一憲

本協議会の平成28年度第24回定時総会が、5月20日に水戸市のフェリヴェールサンシャインにおいて、会員69名又多数のご来賓の方々のご出席のもと盛大に開催されました。

冒頭、増子会長は「われわれの活動を一般の方々に広く知っていただくため、本年度は広報委員会を立ち上げたい。若年層の建設業離れを防ぐためにも、今こそ業界が一丸となりイメージアップ戦略を考える時」と力強くあいさつ。続いて一般社団法人茨城県建設業協会松山副会長より「社会貢献活動を通じて魅力ある建設業の再生、地域建設業の活性化が必要」と激励のお言葉をいただきました。

その後、規約により増子会長が議長に指名され、次の議案審議が行われました。

第1号議案 平成27年度事業報告の件

第2号議案 平成27年度収支決算報告の件

第3号議案 特別委員会設置(案)承認の件

第4号議案 平成28年度事業計画(案)の件

第5号議案 平成28年度収支予算(案)の件

各議案はいずれも原案どおり可決され、今年度は特設委員会として「広報委員会」が設置されました。

議事終了後には、御来賓の茨城県土木部総括技監富永幸一様が「災害に強い県づくりと必要なインフラの整備、上半期の予算執行8割を目指す」と述べられ、続いて国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長伊與田弘樹様から「若手技術者の確



定時総会では事業計画などを決定



茨城県建設業協会松山副会長



茨城県土木部富永総括技監



常総国道事務所伊與田所長

保・育成などの取り組みについて、一体となって推進していく」とごあいさつをいただきました。

総会終了後の記念講演では、講師にスポーツライター・青島健太氏をお迎えし「組織を生かし、人を育てるマネジメント」という演題のもと、ソーシャルスタイルを用いた講演をいただきました。

その後の懇親会及び卒業生を送る会では、多数の御来賓の方々にも出席いただき、会は盛況に幕を閉じました。



スポーツライターの青島健太氏による記念講演

円滑な業務へ、行政機関と意見交換会

茨城県土木部

総務委員会 副委員長 河野 真



平成27年8月20日、茨城県建設技術研修センターにおいて、茨城県土木部と建設未来協議会との意見交換会を開催致しました。

茨城県土木部から、澤田勝総括技監、橋本義彦技監兼検査指導課長、宮崎隆検査指導課首席検査監、圓崎浩明監理課副参事をはじめ検査指導課、監理課より多くの方々のご出席をいただきました。

意見交換会に先立ち、増子会長より「総合評価方式の評価項目で追加された、登録基幹技能者の配置加点について、対象工事が発注されていたが我々も勉強不足で内容が把握できていなかった。入札契約制度については、受発注者がより情報共有することが重要である。本日は担い手確保なども含めた意見交換をお願いしたい。」とあいさつ。

関東地方整備局 常陸河川事務所

総務委員会 副委員長 長山 朋之

平成27年11月25日、常陸河川国道事務所会議室において、意見交換会を開催しました。

常陸河川国道事務所から水島徹治事務所長、宮崎和幸副所長、外川和彦副所長、常陸海浜公園事務所から黒澤信行事務所長をはじめ、両事務所から多くの方々のご出席下さいました。

はじめに、水島所長、増子会長よりごあいさつをいただき、次に常陸河川国道事務所、常陸海浜公園事務所及び建設未来協議会の事業紹介が行われた後以下についての意見交換が行われました。

・改正品確法関係

若手入職者の関心向上のための週休二日制や職場環境の改善等について

・入札契約ガイドライン関係

続いて澤田総括技監より「建設フェスタや建設体験学習など、担い手確保に向けた取り組みに感謝します。土木部としても一般管理費の改定や、市町村発注見通しの情報一元化などに、昨年取り組んできた。今後は設計変更ガイドラインの改定、4週8休といった適正工期の実施などについて取り組んでまいりたい。総合評価の内容など、皆さんの意見を取り入れながら一緒に進めていけたら思う。」とあいさつをいただきました。

会議では双方の情報提供に始まり、協議会からの「現場実務管理」「入札契約制度」「設計図書」についての質疑要望事項に対し土木部からご回答をいただいた後、「若年労働者の担い手確保・育成」について下記の議題を基に意見交換を行いました。

・週休2日制の実現に向けた官民の取り組み

・将来性を見通すことのできる環境整備

(公共事業の安定的な確保)

・若手技術者の早期活躍の推進

(教育訓練の充実強化)

結びに茨城県土木部の皆様には当協議会からの問題提起に対し、大変熱心にご回答いただき誠にありがとうございました。



平成27年9月9日に行われた総合評価落札方式の適用ガイドラインの勉強会を踏まえた質疑応答(入札から契約までのスケジュールなど)

・現場管理積算関係

工事支障物件に起因する着工の遅延、先行指示における概算金額の記載、土質変化による追加試験費用の計上など

「建設フェスタ 2015」開催!

地域貢献活動委員会 副委員長 根本 昌義

雨の中ミニ上棟式にたくさんの子どもたちが駆けつけた



平成27年11月8日に22回目となる「建設フェスタ 2015」を開催いたしました。会場は昨年同様、ひたちなか市にある「笠松運動公園」を利用させていただきました。

開催当日は天候が思わしくなかったのですが、会員の皆様はじめ、関係各位のご協力により予定通り開催する事が出来ました。小雨が降る中での開催にも係わらず1万2500人ものお客様にご来場いただき、沢山の方々が当フェスタを待ち望んでスケジュールを組み入れて下さっているという事を痛感すると共に、当事業の一端を担う者としての喜びや、自らの役割を完遂する事でお越しいただいた皆様のご期待にお応えしたいという思いを改めて持つことが出来ました。

建設フェスタは、県、国土交通省及び建設産業に関連する各団体が一体となって建設産業の魅力を広く県民の皆様にお伝えするためのアイコンとして、小さなお子様から大人の方まで、楽しみながら建設産業について学べるように沢山の体験コーナーやイベントを展開する事業として今日まで取り組んで参りました。人気の高い催事内容としては、例年同様「参加型・体験型」で、超速硬セメントの性能を柔軟に応用した消波ブロック製作体験、潔い位合理的で、機能美を体現したかの

ような土木用建設機械の運転、試乗体験等の受付には長い列が出来ました。また現代においては目にする機会の少なくなった上棟式の再現を行う事により、大工の棟梁が建築の神様に祝詞をあげる様子や、「散餅銭の儀」という災いを祓うための儀式が由来となり発展的に広がったといわれる餅まきを子供たちに体験してもらおう事で、建築物そのものに対しても真摯に向き合う古き良き日本人の精神を伝える事が出来

ました。多くの体験を通じて、子ども達の心の片隅に土木・建築産業の重厚な世界観が良い思い出として残ってもらえたなら幸いです。

そしてこの日本最大級と謳われる当フェスタが今年も滞りなく進行することが出来た理由は、全ての催事において各団体、会員の皆様が汗や雨にまみれながらご尽力下さった事の賜物であるつくづく感じました。また、スピーカーの設置箇所、会場全体図の掲示等細部においても過去の反省を生かし小さな改善を積み重ね続けている結果が、動員数にも少なからず反映されているのだと感じました。

偉大なる先輩方により基礎が築かれ、20年以上をかけて丁寧に引き継がれていった建設フェスタという大きな財産が、世代を超えて今我々の眼前にそびえ建っています。今後を担う



重機を操り魚釣り

我々の世代にとって、特に着目すべきことは「仕上げ」ではないかと思っております。それは外装、つまり対外。例えばバーチャルリアリティ技術等を駆使して建設産業に縁の少ない方々に更なる理解を深めていただくこと。そして内装、対業界。つまり現在まで建設産業を支えて下さっている方々並びに今後仲間となる方々が居心地良いと思える環境を創出すること。明確な答えを見出すにはまだまだ時間を要しますが、同時代に同業界に生きる皆様と共に一歩ずつ前向きに歩を進めて行きたいと思っております。

最後になりますが、「建設フェスタ 2015」にご協力いただきました会員の皆様、また茨城県土木部をはじめとした関係機関の皆様には改めて御礼申し上げます。これからも「建設フェスタ」を



消波ブロック製作も大人気

我々建設産業と一般市民の方々との交流の場、そして情報発信のマスターアイコンとして継続していく事が、ひいては建設産業の発展に繋がるのではないかと考えております。皆様におかれましては、今後も変わらぬご協力、ご指導、ご鞭撻を賜ります様宜しく御願ひ申し上げます。

次世代を担う若者たちが建設業を体感

現場見学会・実習を開催

人材・システム委員会 委員長 高田 稔美

次世代を担う高校生・専門学校生・大学生を対象に建設事業の正しい理解と魅力を感じていただくよう、毎年「建設現場見学会」「建設現場実習」を開催しております。今年度は建設現場実習に高校6校、専門学校3校、総生徒数145名が参加。56社の会員企業にご協力をいただきました。また建設現場見学会では高校5校、専門学校2校、大学1校、総生徒数422名、総引率教員22名の参加で実施することができました。各校からいただいたアンケート結果や先生方のご意見は来年以降につなげていきたいと思っております。



現場で測量などを体験

現状建設業界も他業種同様、人材不足・高齢化が問題となっております。茨城県でも普通科の生

徒のインターンシップ、4週8休のモデル工事の実施、労務単価の見直しなど若年入職者の増加に向けての取り組みが強化されています。今後も建設現場で自分の目で見て感じて、将来の進路を決める一助となるよう、学校関係者の皆様と連携を取りながら事業を実施してまいりますので会員の皆様のご協力をお願いいたします。

結びにこの事業にご協力を賜りました茨城県土木部様、国土交通省様、実習生・見学生を快く受け入れてご指導いただきました会員企業の皆様に心から御礼申し上げます。



説明に聞き入る学生たち

安全環境を提供
作業体験で歓声

砂場クリーン作戦遂行!

地域貢献活動委員会 副委員長 生田目 勝義

“子供達に安全で衛生的な砂場環境で遊んでもらう事”を目的とし、昨年度に引き続き「砂場クリーン作戦」を東海村の「社会福祉法人 諏訪学園 みぎわ保育園」にて、平成27年6月18日に実施致しました。今回で2回目の実施となり昨年の経験があった分、順調に準備・計画が進みました。しかしみぎわ保育園には大小合わせて2つの砂場があり、昨年度の規模と比較すると約4~5倍の作業量が必要であり、限られた時間内で完了させるため、機器類の準備、人員配置には苦勞しました。また、昨年同様6月の梅雨時期に実施するため当日まで天気が心配でしたが、当日は雨に降られずに作業を進めることができました。

具体的な作業としては

- ①重機及び人スコップにより砂を場外に掘り出す、掘り出し作業
- ②電動砂ふり機及びふるい網（人力）による、ふるい分け作業
- ③ふるい分けによって目減りした砂を補充する、補充作業
- ④消毒液散布による、除菌作業
- ⑤犬猫等の小動物糞尿害を防ぐための、防除ネット設置

を行いました。



子どもたちも一所懸命お手伝い



今回は手作業だけでなく重機も使用し、園児たちも大興奮で「おじさんががんばれー!」という



黄色い声援もたくさんいただきました。また、園児たちにも、スコップとふるい網で砂ふり作業も体験してもらいました。子供達も非常に意欲的で、何度も列に並び直し、何回も砂ふり体験をする子供もいました。

最終的に土のう袋29袋分の、小石、小枝、枯葉、プラスチック片、金属片、おもちゃなど、様々な異物を除去出来ました。保育園の先生からは、「こういった活動は、保育園としてもありがたいので、今後も続けて行って下さい」と仰っていただきました。

最後に、今回の活動にご協力いただいた「社会福祉法人 諏訪学園 みぎわ保育園」様に感謝を申し上げますと共に、地域貢献活動委員会を中心として昨年の約2倍の人数で参加して下さいましたスタッフの皆様には厚く御礼申し上げます。今後も、このような活動を続けて参りたいと考えておりますので、引き続きご支援ご協力を宜しく御願ひ申し上げます。

「第3回建設ふれあい祭り」を開催 ～地域の子供達に夏休みの思い出を～

県西地区 幹事 小澤 淳

平成27年8月22日に境町利根川河川敷にて「第3回建設ふれあい祭り」を開催いたしました。主に古河市・坂東市・境町・五霞町の子供たちを対象に告知・PRを行い、1300人のお客様にご来場いただきました。

このふれあい祭りは「地域の子供たちに夏休みの思い出をプレゼントしよう!」が基本コンセプトです。子供たちは働く重機が好きですが、工事現場は危険であり、立ち入りは禁止されているので簡単には近づけません。子供達から重機に乗ってみたいという声を聞くようになり、何とかその夢を叶えてあげることができないかと協議

前年を上回る1300人が来場



した結果、自社の保有する建設機械を活用し重機の搭乗体験をやってみよう!という発想がこのイベントの始まりでした。

開催前日は境支部及び県西地区会の会員で準備を行い、各社が保有している社名入りの重機をたくさん持ち寄り、バックホウ10台・タイヤショベル2台・タイヤローラー1台・コンバインドローラー2台・ブルドーザー1台・高所作業車1台・アスファルトフィニッシャー1台・草刈機2台と多くの重機が揃いました。安全面では前年の反省をもとにカラーコーン・バーを300セット用意し会場を設営しました。開催当日は晴天に恵まれ朝早くから多くの家族連れでにぎわい、子供たちの明るい声と笑顔がたくさんあふれていました。

今回も会場アンケートを実施し、来場者皆さんの声を聞かせていただきました。来年も来てくれますか?の問いには「97%が来たい」との回答。建設業へのイメージは「大変良いが60%」「良い

が37%」「普通が3%」との結果でした。その他イベントの感想として「非常に楽しかった」「カッコイイ」

「来年も開催してほしい」「皆さんやさしかった」「親子で楽しく過ごせました」など嬉しい声をいただきました。

日頃、地域の皆様には工事などでご不便をおかけしてばかりです。建設業にあまり良いイメージを持たれていないと思っていましたが、そんな事は全くありませんでした。我々のやっている仕事はこうして子供たちを喜ばせることができ、家族で楽しんでいただける仕事であるとあらためて気づくことができました。そしてこれまで3Kなどと言われてきた職業ですが、重機に乗る子供たち、家族の笑顔を見て、建設業に携わる一員として自信を取り戻すきっかけにもなりました。ふれあい祭りは地域貢献活動との位置づけですが、逆に建設業というものの存在価値を我々が地域の皆様から教えていただいた気がします。

こうして地域の皆様とふれあう貴重な機会を大切に息の長いイベントとなるように今後も活動していきたいと思



木造倉庫「湊ハウス」を建築 中学生たちがものづくりの楽しさを学ぶ

ひたちなか市立那珂湊中学校にて

大宮・大子地区 幹事 長山 朋之

平成27年度のCC1茨城(茨城県魅力ある建設業推進連絡会議)「建設体験学習」は、平成27年10月1日、21日の2日間、ひたちなか市立那珂湊中学校の2年生159名を対象に開催しました。

1日目は、「木造倉庫の基礎工事」「測量体験」「直角三角形を作ろう」「液状化現象実験」を実施しました。基礎工事では鉄筋の曲げ加工と結束をしましたが、鉄筋を90度に曲げることや、ハッカーをくるくる回して結束することが難しかったようで、大分苦戦していました。測量体験では、レベル・光波に触れてもらいました。標尺の数字を読むのに苦労したり、巻き尺を使わなくても距離を測れることに驚いていました。直角三角形をつくるには、それぞれがアナログ手法で直角はここだ!という位置にピンを打ち、トランシットにて答え合わせを行いました。意外と±2°くらいに位置を出すことができ、こちらが驚かされました。

今回初めて実施した液状化現象実験では、東日本大震災時に身近で起こった液状化現象の仕組みについて、模型を使用して学んでもらいました。振動を与えると砂地盤の中に埋まってしまう車や建物、倒れる電柱、浮き上がってくる排水管の様子を生徒たちは興味津々に見ていました。

最後に基礎コンクリートの打設を行い、一輪車でよろけながらも一所懸命に運んでいる姿はとてもほほえましく思えました。降雨により仕上げ作

今回初めて実施した液状化実験の様子



必死で角材を積み上げる生徒たち

業はこちらで行いましたが、人力作業の大変さを実感できたようです。

2日目は、「木造倉庫の組立作業」「重機操作体験」を実施しました。校倉工法の木造倉庫は、角材を水平に積上げていく工法です。生徒たちは2人1組になり、なかなか入らない角材、まっすぐに打ちづらいビスに悪戦苦闘しながらも頑張って組み上げていました。重機操作体験は、コマツ茨城(株)様のご提供、ご指導のもと、小型バックホウ4台、振動ローラー2台を使っでの操作体験をしました。生徒たちに加わり先生方にも体験していただきましたが、生徒たちの方が飲み込みが早く、中にはスムーズに運転している生徒もいました。

完成した建物は「湊ハウス」と命名され、11月26日に引渡式を行いました。引渡式には、ひたちなか市教育委員会根本教育次長、茨城県土木部検査指導課橋本課長、茨城県建設業協会大宮支部高野支部長にご列席賜り、生徒代表謝辞では、「将来において貴重な経験をさせていただきました。完成した倉庫は大切に使用させていただきます。」との言葉をいただきました。

今回、建設体験学習に関するアンケートを実施した結果、建設業について知っていた生徒が全体の7割も占めており、そのアプローチは1位がテレビ(40%)、2位が工事現場(25%)、3位が家族・友人・知人(15%)という内訳で、意外と工事現場に関心があることに気付かされました。

また、将来建設業に関する仕事に就きたいと考えている生徒は1割弱しかいませんでしたが、まだどういった仕事に就きたいかわからない生徒が半数以上を占めていました。こうしてみると、中学生は物事への関心が強く、将来どのような仕事に就きたいかを決め始める年頃であると考えられます。今回の体験学習を終えて、建設業がどのような職種かわかった生徒たちが95%を占め、ほとんどの生徒たちが体験学習を楽しんで参加してくれたことに、感謝の気持ちとやりがいを感じました。同時に、生徒たちが進路を決める上で、「建設業」という新たな選択肢が芽生えたと思っております。最後に、建設体験学習の実施に当たり、茨城県



土木部検査指導課、茨城県建設業協会をはじめとする多くの方々から多大なご協力をいただきましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

高萩・太田地区

中学生建設業体験学習

高萩・太田地区 副幹事 鈴木 達二



平成27年11月30日、北茨城市立華川中学校において、高萩・太田地区主催による「中学生建設体験学習」を開催しました。

体験学習には同校の1、2年生38人が参加し、地区会員の指導の下、小型バックホウ、ホイールローダを使った重機操縦体験、光波測距儀を使った測量体験、そして倉庫の塗装作業体験を実施。生徒たちは慣れない作業に戸惑いながらも、新しい体験に目を輝かせていました。

今回の体験学習が生徒たちの職業観を少しでも豊かにし、将来建設業に携わる仲間が一人でも出てきてくれることを願うと同時に、ご協力いただいた市教育委員会、学校、企業の皆様に心から感謝申し上げます。

建設業経営講習会を開催

～税務の知識深める～

人材・システム委員会 委員長 高田 稔美

平成28年2月10日茨城県建設技術研修センターにて、人材・システム委員会主催、東日本建設業保証(株)茨城支店様のご共催により、「建設業経営講習会」を開催しました。

今講習会は(株)経営総合コンサルタント協会代表取締役で公認会計士・税理士の木下昌様を講師にお迎えし、「今 建設業に必要な21の税務知識」と題してご講義をいただきました。建設業を取り巻く税制、税金対策についての解りやすい解説に、約50名の参加者はメモを取りながら熱心に受講していました。

人材・システム委員会では、今後も引き続き会員企業の経営力強化に資する情報の提供に取り組んでまいります。



委員会紹介

総務委員会

当委員会は主に総会・親睦行事等の各種会合及び各発注機関との意見交換会の企画・運営をしております。各発注機関との意見交換会では技術・品質の更なる向上のため、受発注者間での問題を提起し各発注者様の御協力のもと、非常に有意義な意見交換を開催させていただいております。

今年度も会員各位への連絡調整、情報提供等へ努めてまいりますので皆様の御協力をよろしくお願いたします。

<今年度の主な事業>

- 総会、役員会、親睦行事の企画・運営
- 各発注機関との意見交換会の企画・運営
- 機関紙NEXTの発行・ホームページの更新管理
- 予算・決算に関する業務
- 会員各位への連絡調整・情報提供

- 担当副会長** 小林圭一 (谷原建設(株))
委員長 櫻井俊一 (櫻井建設工業(株))
副委員長 田山浩之 (第一熱学建設(株))・後藤一憲 (榑後藤工務店)・河野真 (榑河野工務店)・長山朋之 (長山工業(株))
委員 荒川繁美 (水戸土工工業(株))・関根貴雄 (榑関根工務店)・須田要介 (日立土木(株))・小林信昭 (榑小林建設)・大曾根篤 (大栄建設(株))・生田目憲明 (榑進栄)・飯塚揚 (榑飯塚工務店)・石津松吾 (石津産業(株))・鈴木大輔 (鈴木建設(株))・飯塚亮平 (飯塚建設(株))・塚原健一 (榑塚原建設)・細谷貴弘 (細谷建設工業(株))・谷田川道裕 (谷田川建設(株))・赤塚剛 (榑赤塚土木興業)・石川崇 (北条工業(株))・鈴木亮 (北都建設工業(株))・田林剛 (勝工業(株))・小倉健太郎 (榑小倉工務店)・田所大和 (榑ワイエスケイ)・仁平大介 (榑仁平工務店)・堀江平 (堀江産業(株))・高塚誠司 (高塚建設工業(株))・山本明宏 (榑下妻建設)・印出正人 (榑丸健工業)・小川敦史 (小川建設工業(株))・加藤裕司 (加藤建設工業(株))

人材・システム委員会

人材・システム委員会では高校生、専門学校生を対象にした現場見学会、現場実習を通して、今後の建設業を担う世代に建設業の魅力・必要性を理解してもらえるよう活動しております。またSNSを活用した情報共有ツールを構築し緊急時の連絡手段の確保、情報共有の仕組みを構築します。さらに経営力強化のための講習会を企画し、時代のニーズに沿った学びの機会や研究を通して、未来の建設業の発展に寄与するべく委員会活動に取り組んでまいります。

<今年度の主な事業>

- 高校生・専門学校生の現場見学会及び現場実習の実施
- 高校・専門学校教師との意見交換会
- 経営力強化のための勉強会・講習会の開催
- SNSを活用した情報共有ツールの構築・研究
- 未来の建設業についての調査研究等

- 担当副会長** 大橋一博 (森田建設工業(株))
委員長 高田稔美 (榑高田工務店)
副委員長 横田修一 (榑横田建設)・井坂陽介 (榑井坂組)・鈴木達二 (鈴木工業(株))・大和田隆之 (榑大和田建設)・新井紀雄 (新井土木(株))・染谷真一 (榑染谷建設工業)
委員 大平嘉章 (大平建設(株))・雲井憲正 (榑雲井工務店)・黒澤勝 (アルプス建設(株))・小池良一 (榑小池工務店)・宮本裕司 (芳野工業(株))・中井将史 (榑中井工務店)・中野陽平 (榑根本組)・石井公彦 (榑角石)・大森裕一郎 (大森建設(株))・齋藤靖弘 (榑サイトウ緑地開発)・安藤祐章 (榑鹿島企業)・大川雄生 (榑サンワ興業)・軍司修利 (軍司建設(株))・郡司誠 (榑郡司建設)・城内浩和 (榑大平工業)・細田誠一 (誠殖産工業(株))・茂木充史 (水郷建設(株))・森貴敬 (森新建設(株))・谷田川智久 (榑ホソヤ工務店)・赤塚康伸 (赤塚工業(株))・後藤賢 (飯田建設工業(株))・根本順一 (榑根本興業)・石嶋尚 (榑石島建設)・柴直樹 (榑柴建設)・鮎川和男 (飯田建設興業(株))・柴信一 (旭建設工業(株))・野口貴生 (野口機設工業(株))・新井邦幸 (榑新井建設工業)・菊池忠行 (榑菊池工業)・松本浩治 (榑新栄開発)

地域貢献活動委員会

当委員会の担当事業は、「建設フェスタ」及び「砂場清掃奉仕活動」の企画・運営です。建設フェスタは次世代を担う子ども達に向けて、生活・社会基盤の整備を担う建設産業の魅力を楽しく理解してもらう事を目的として、平成6年よりこれまで22回にわたり開催して参りました。これまでの累計入場者数は28万4000人を数え、国内でも屈指の建設産業関連イベントとなっております。また、砂場清掃奉仕活動は子ども達の遊ぶ砂場を安全で衛生的な砂場に再生する事を目的として、2年前より取り組んでおり、子ども達と共に協力しながら行う事によって、我々の存在を身近に感じてもらえるイベントとなっております。我々建設産業を取り巻く環境は様々な問題を抱えておりますが、中でも後継者の確保(入職者の確保)は最重要課題の一つとなっております。人口減少、高齢化社会を迎え、労働人口が減少する中でいかに我々の産業が後継者を確保出来るのか、今様々な取り組みを官民あげて行っておりますが、この「建設フェスタ」と「砂場清掃奉仕活動」等の取り組みが、その課題解決の為の一助となれば幸いです。我々が抱える問題はどれも一朝一夕には解決出来ないものばかりですし、また一人(一社)でも解決出来ません。今後も当委員会は、委員全員が共通意識をもって、「協力」し「継続」して活動を行っていく事で少しずつ市民の皆様へ我々の魅力を伝えていくと共に、委員同士が互いに協力し、仲間意識を高め、未来の建設産業を支えられる人材になりたいと考えております。

末筆ではございますが、発注団体及び建設産業に係わる関係団体の皆様、今年度も皆様のご協力を賜ります様、何卒宜しく御願ひ申し上げます。

<今年度の主な活動>

- 建設フェスタ2016の企画運営
- 献血・骨髄バンク登録事業への協力
- 保育園等の砂場清掃奉仕活動

- 担当副会長** 吉田長邦 (株)吉田組
委員長 大曾根理一郎 (株)大曾根建設
副委員長 内藤裕一郎 (株)内藤工務店・根本昌義 (株)根本工務店・生田目勝義 (株)生田目工務店・小野口整慶 (株)常陽開発工業(株)・栗山秀樹 (株)栗山工業(株)・串田一仁 (株)クシタ建設
委員 秋山正人 (株)秋山工務店・北島博 (株)北島工務店・下田亜紀子 (菅原建設(株))・仙波秀教 (仙波建設(株))・高橋順子 (高橋建設工業(株))・田口富之 (株)田口工務店・西山孝 (株)西山工務店・益子朋 (益三建設(株))・岡田寿浩 (株)岡田建設・鈴木欽一 (株)鈴木組・瀬谷政行 (瀬谷建設(株))・井上将人 (株)井上工務店・大内榮樹 (株)大栄建設・川崎和洋 (株)川崎建設・猿田俊充 (株)猿田工業・澤畑弘樹 (東康建設工業(株))・清水亮 (株)田本工務店・高倉美佳 (高倉建設工業(株))・高野弘康 (株)高野工務店・根本貴史 (株)ネモト建設工業(株)・野上大輔 (野上建設(株))・八木満津雄 (株)八木組・横須賀靖 (横信建材工業(株))・柳瀬香織 (海老根建設(株))・齊藤卓也 (株)齊藤建設工業・菅谷一成 (株)菅谷工務店・新堀進也 (株)新堀産業・藤井雅成 (株)丸二工務店・藤枝賢一 (株)藤枝建設(株)・石津弘敏 (常総開発工業(株))・犬塚正一 (株)和城産業・小川光将 (小川建設(株))・保立明宏 (株)宏洋・松崎祐二 (株)松崎建設(株)・木村保幸 (株)キムラ工業(株)・櫻井郭実 (株)櫻文工業・篠崎尚史 (株)篠崎工務店・福智勇人 (福智建設工業(株))・川田秀樹 (株)川田建材工業・仲川将大 (株)仲川建設・大坂寛暁 (大坂建鋼(株))・菊池健郎 (株)菊池土建・鈴木茂 (株)鈴木鉄工建設(株)・中山英俊 (株)染谷工務店・根本忠志 (株)根本工業・野中泰博 (常総ブロック(株))・青木敏紘 (株)青木建設・小澤淳 (小沢道路(株))・高崎弘道 (株)高崎建設・高橋拓也 (株)高橋芝園土木)

広報委員会

本年度新たに特設委員会として発足した広報委員会は、協議会の活動や地域建設業の役割を市民の皆様へ広く知っていただき、地域社会になくしてはならない「未来産業・将来産業」としての建設業をPRすることを目的としています。そのために、各委員会・地区会の活動、イベント情報、建設業に関するニュース・トピックス等をインターネット、SNSを通じて発信していきます。また、マスメディアに対して積極的な情報発信、取材誘致を行い、一般媒体での地域建設業の露出増加を図ります。さらに、独自のイメージアップ事業の企画・立案も視野に入れています。

これらの活動を通じて、茨城を建設業PRの先進地域とするべく取り組んで参ります。

- 〈主な事業〉**
 ○協議会各種活動の取材、記録、広報素材の制作
 ○インターネット、SNSを活用した建設業のイメージアップ活動
 ○プレスリリースの配信、マスメディアの取材誘致、取材対応
 ○業界PRに関する先進事例の調査・研究
 ○イメージアップ事業の企画・立案・実施
- 委員長** 鈴木達二 (株)鈴縫工業(株)
副委員長 下田亜紀子 (菅原建設(株))・河野真 (株)河野工務店
委員 田口富之 (株)田口工務店・生田目憲明 (株)進栄・石津弘敏 (常総開発工業(株))・栗山秀樹 (株)栗山工業(株)・小倉健太郎 (株)小倉工務店

●平成27年度 入会者

地区	氏名	商号
鹿行	軍司修利	軍司建設(株)
大宮・大子	柳瀬香織	海老根建設(株)
鹿行	松崎祐二	松崎建設(株)
高萩・太田	須田要介	日立土木(株)

地区	氏名	商号
水戸	宮本裕司	芳野工業(株)
鹿行	保立明宏	(株)宏洋
県南	田林剛	勝工業(株)

●平成28年度 入会者

地区	氏名	商号
県西	中山英俊	(株)染谷工務店
鹿行	齊藤卓也	(株)齊藤建設工業

●卒業された皆さん

地区	氏名	商号
高萩・太田	古川英希	(株)古川工務店
高萩・太田	梅原基弘	(株)梅原工務店
高萩・太田	高岡藤夫	珂北開発(株)
高萩・太田	根本敬久	(株)根本工務所
大宮・大子	安雅人	(株)やすくら工務店

地区	氏名	商号
大宮・大子	袴田伸助	(株)袴田工務店
県南	細谷武史	大昭建設(株)
県西	江田訓章	江田建設工業(株)
県西	木村三益	丸三商事工業(株)
県西	山中美登樹	山中建設工業(株)

編集後記

工業大国と聞いて、みなさんはどこの国を想像するでしょうか。日本、ドイツ等が頭に浮かぶのではないのでしょうか。OECDによると、2013年のドイツでの年間労働時間は1388時間、日本は1735時間と日本より20パーセントも短く、かつ、労働生産性(GDPに就労者数を割ったもの)は15.2%も上回ります。ドイツで働く日本人は、最初戸惑いを隠せないそうですが、意外と時間を有効活用し、効率よく仕事がこなせるそうです。我々建設業界も、ドイツの例を参考に環境改善を行いたいものです。

(N・N)